

気象衛星“ひまわり”による皆既帯付近（インドネシア）

大 越 治

日食情報№3に、塩田氏訳による米海軍天文台回報がのっている。その中に気象情報も出ていて、すでにお読みになった方も多いと思う。ここでは、その解説と合わせて、ひまわりの画像をごらんいただきたい。

本来ならば、今年の前半にこの記事に掲載し、観測地選定の材料にさせていただくつもりだったが、ご存知の通り様々なツアーが早くから名乗りをあげ、観測者は観測地に関してあまり選択の余地がなくなってしまったようだ。従って、この記事で『自分の行く所はどんな具合かな』と確認をしていただくことになるだろう。

日食がインドネシアで見られるのは、世界時でおおよそ4時半から5時ごろであるが、ひまわりの画像は0時から3時間ごとなので、ここでは3時の画像と6時の画像をのせることにする。

画像の見方は“日食情報1980・№4”に書いたが、もう一度書いておこう。

可視画像で白く見える部分は高反射の場所を示し、黒い部分は低反射の場所を示す。この反射率は、衛星と雲との間の光学的距離の長短や、太陽の位置、雲そのものの反射率によって、変化する。一般的に水分を多く含む雲は輝度が大きい。

赤外画像での白い部分は低温の場所を示し、黒い部分は高温の場所を示す。一般に雲頂高度の高い雲ほど雲頂温度は低い。

可視画像と赤外画像を比べると、下の表のような雲の状態が読み取れる。

赤外 可視	白 色	淡 灰 色	灰 色	濃 灰 色	黒 色
灰 色	衰えた積乱雲	絹 雲	薄い絹雲 中層雲	晴れ積雲 層積雲	
淡 灰 色	積 乱 雲	絹 雲 雄大積雲	中層雲	晴れ積雲 層積雲	
白 色	絹雲+中層雲 最盛期積乱雲	雄大積雲		霧または 層 雲	霧または層雲

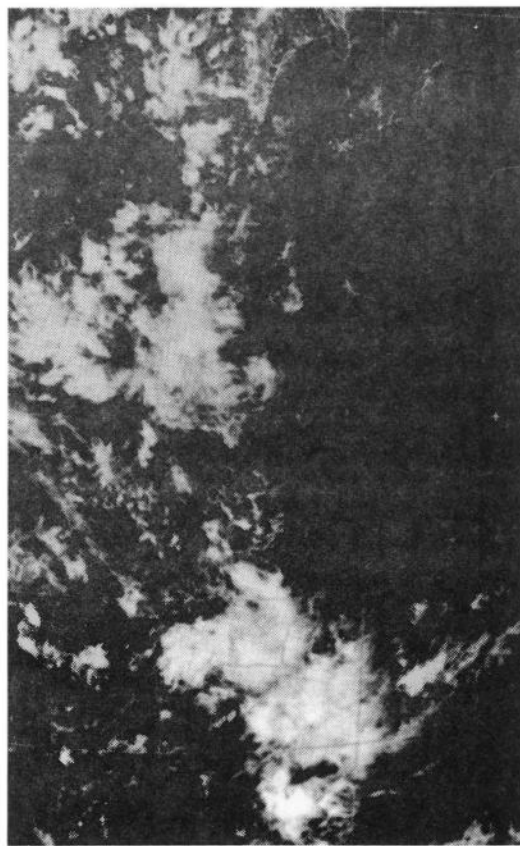
写真を見てすぐわかるのは、ジャワ島中央部に点々と浮かぶ雲の列で、風向きとの関係をよく示してる。また、時間による雲の変化にも注意してほしい。

なお、今年画像については、№3の秦氏の記事にあるように、あまり参考にならないと判断して割愛した。



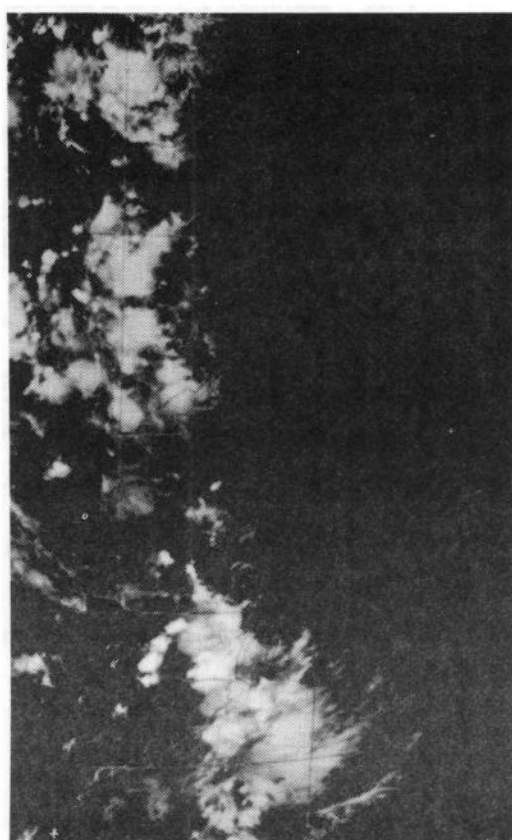
VIS
IR

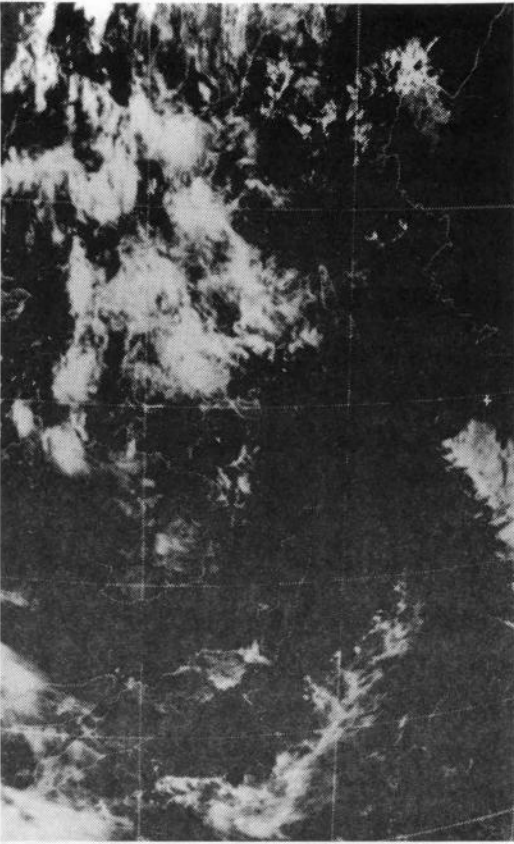
1979年6月11日 03時



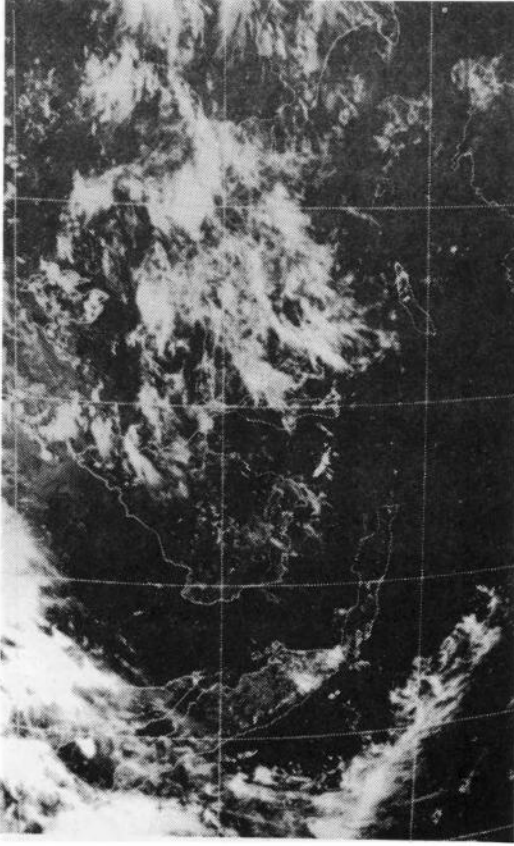
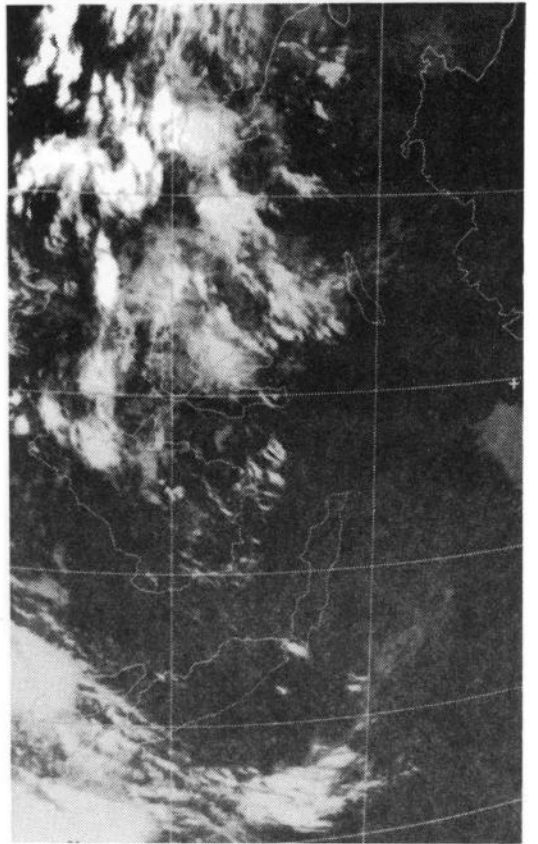
VIS
IR

1979年6月11日 06時

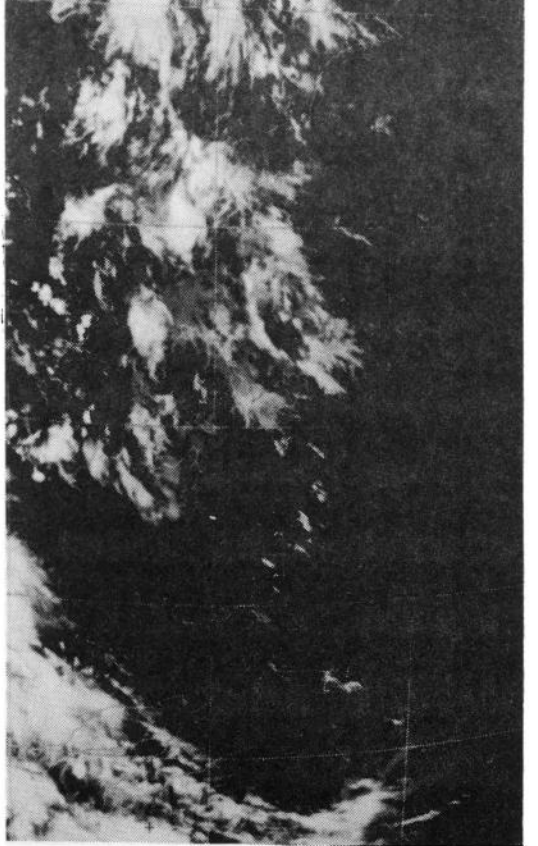


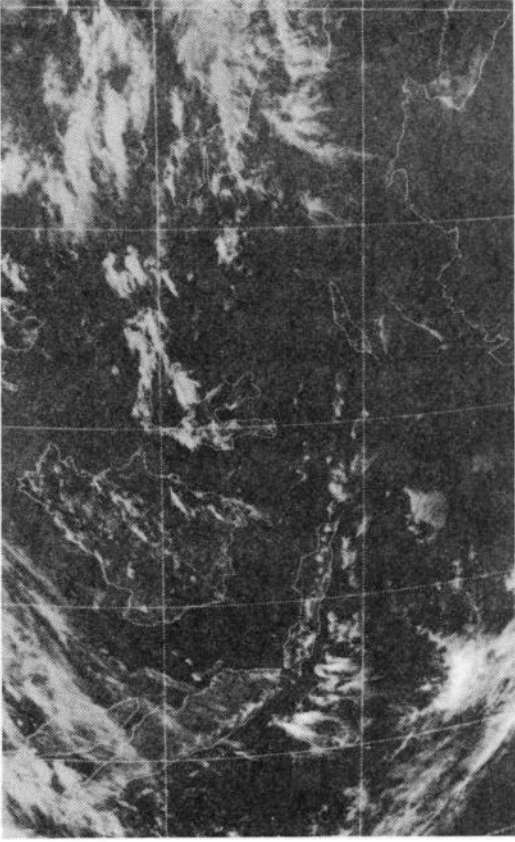


VIS
1980年6月11日 03時
IR



VIS
1980年6月11日 06時
IR





1981年6月11日 06時 VIS
IR



1981年6月11日 03時 IR

